

2016年8月14日(日)朝10:10～

聖霊降臨節14、記念写真等

8月第2召天者記念共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：わたし(使徒パウロ)をまねなさい

聖書:ピリピ 3章17～21節

＜口語訳＞

新約聖書311～312頁

フィリピ 3章17～21節

＜新共同訳＞

新約聖書365頁

ピリピ 3章17～21節

＜新改訳第3版＞

新約聖書386～387頁

ピリピ3章17～21節＜塚本訳＞

新約聖書627～628頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**ピリピ書**は、**異邦人伝道者使徒パウロ**が、**ローマの獄中**で**認めた書簡**とされています。

◇**ピリピ書3章17～21節**は、**主イエス様**を**パウロの人生**を**大転換**して下さったお方と直前の**3章1～11節**で語り、**3章17～21節**では、**キリスト者の本来の生活**に言及、**本国**は、**天にあり**と、**パウロ**は、は語っています。

⇒「**本国**」という訳は、新共同訳の表現ですが、「**故国**」から離れた外国にいるという姿を思い浮かべさせます。

⇒**パウロ**は、地上生活を外国、天を「**本国**」と描き、「**本国**は、**天にあり**」と語っています。

⇔「**本国**」が「**天であっても**」、地上の生活は、**どうでもよい**と言っているのではありません。

⇒むしろ、「**本国生活**」を地上でもなすべきだと語っているのです。

⇒特に太平洋戦争の時、多くの兵士・軍人たちが、「**本国・故国**」に残している肉親・妻・子供を思ったことを語るのが慣れ親しんでいる表現です。

⇒「**本土**」を踏むことなく命を落としたと語ります。

本論；

◇本日、ピリピ書3章17～21節から主の使信に思い・心vousをとめます。

◆ピリピ3章17～19節；パウロは、キリスト者は、キリストの十字架の敵として生きる者のではないと、先ず、語っています。

◇17～19；塚本訳◆私を真似よ、わたしたちの本国は天<17～21>

「17 兄弟達よ、皆で私を真似る者になれ。また君達と同様私達を手本にして歩いている人達に目を留め(、その人達をも手本にせ)よ。

18 何故なら、度々君達に言ったように、今また涙を流して言うように、キリストの十字架の敵として歩いている者が多いのだから！——

19 あの人達の最後は破滅、その神は自分の腹、その光栄(と考えているもの)は(実は)恥であって、あの人達は(ただ)地のこと(ばかり)に気を取られているのだ！」と、パウロは語っています。

- ◇ 18～19節 ; 「キリストの十字架の敵として歩いている者が多い」、「光栄(と考えているもの)は(実は)恥であって」、「その神は自分の腹」、「地のこと(ばかり)に」、「気を取られている」、「あの人達の最後は破滅」、と、パウロは、「キリストの十字架の敵として歩いている者が多い」現実生活を悲しんで語っています。
- ⇒ 「キリストの十字架の敵として歩いている者が多い」とは、「自分の腹」を神とし、「地のこと(ばかり)に気を取られている」生活で、パウロは、「ピリピ」が「ローマ帝国の植民地」であり、「退役軍人の隠遁地」で、「この地の住民」には、「ローマ帝国の市民権」が付与されたので、その誇りを「あの人達の最後は破滅」と皮肉に受け取って語っています。
- ⇒ 多くのユダヤ人キリスト者が、「キリスト・イエス様の身代わりの死」を受け入れて、神の救いを得たにも関わらず、再び、神の掟を守り抜いたので、「神の救い」に到達したと主張していたのです。
- ⇒ 「本国は天にあり」と告白しつつ、キリスト者として、神信仰が足りないと言うのと同じです。

⇒今年は、パウロが、17節の「私を真似る者になれ」、「私達を手本にして歩いている人達に目を留め、(その人達をも手本にせ)よ」と語ることばに注目したいと願います。

⇒パウロは、ユダヤ人として有能な才覚を与えられ、若くして、ユダヤの最高学府に学び、最優秀の成績を修め、40歳代で、ユダヤの国会議員に選ばれた人でした。

⇒当時のユダヤ国会は、世俗派のサドカイ人と律法に忠実なパリサイ人と呼ばれる2つの派閥で構成されており、パウロはパリサイ人に属していましたので、当時とキリスト者には、殊更に厳しく、将にキリストに敵対して、当時のキリスト者を迫害、捕縛し、投獄しようと熱心に活動していたのです。

⇒その彼を、神は、現在のシリアの首都ダカスコ(現在のダマスカス)まで、エルサレムかた追跡してキリスト者を捕縛しようとしていた時、天からの不思議な光で、パウロの両目を打ち、盲目とされました。

⇒「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」と、語りかけて下さいました。

- ⇒更に、ダマスコにいるキリスト者のアナニヤに祈ってもらうように命じられたのです。
- ⇒パウロが、最も憎み、敵対してきたキリスト者に祈ってもらうことは、**パウロの誇り**を傷つけることでしたが、**パウロ**は、周辺の人々の助けを借りて、アナニヤに会います。
- ⇒**神**は、事前にアナニヤにも現れ、**パウロ**のため祈るよう命じられますが、**パウロ**を恐れていたアナニヤは戸惑います。
- ⇒ここでも、**神**は、アナニヤを説得、「あの人は、わたしの名を異邦人、イスラエルの子孫の前に持ち運ぶわたしの選びの器です。彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならぬか、わたしは彼に示すつもりです」とのことばを語り、アナニヤが、**パウロの頭**に手をおいて祈ると、即座に**パウロの目**が開き、見えるようになったのです。
- ⇒**パウロ**が、「**私を真似る者になれ**」、「**私達を手本にして歩いている人達に目を留め**(、その人達をも手本にせ)よ」と命じるのは、心の盲目な生活から、**神**を認め、**神**に従った**パウロ**のように生きることでした。

◆ピリピ3章20～21節；パウロは、キリスト者は、**本国を天にもつ者**と、語っています。

◇20～21；塚本訳◆私を真似よ、わたしたちの**本国は天**<17～21>

「20 しかし(私達はそうであってはならない。)私達の故国は天にある。私達は主イエス・キリストが救い主として其処から来給うのを待っているのである。

21 (その時)彼は私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給うのであろう——万物を己に従わせ得給う御力によって！」と、パウロは語っています。

◇20～21節；「私達の故国は天にある」、「主イエス・キリストが救い主として其処から来給う」、「万物を己に従わせ得給う御力によって」、「私達の(この)卑しい体」、「御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」と、パウロは、「主イエス・キリストが救い主として其処から来給う」と「私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う」神の恵みを希望をもって語っています。

⇒17節で、「皆で私を真似る者になれ。また君達と同様私達を手本にして歩いている人達に目を留め(、その人達をも手本にせ)よ」と、パウロは語りましたが、「**天の本国**」を告白する者の「**私達の(この)卑しい体を御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う**」との**神の恵み**をパウロ自身が確信していましたので、「**神信仰**」に確信をもって生きる生き方を共有してほしいと訴えているのです。

⇒「**私達の(この)卑しい体**」とは、だれかと比較して、「**卑しい**」ことではなく、「**朽ちないからだ**」を**死人の中からの復活**によって与えられた**神の御子イエス・キリスト様のからだ**と比べ、「**私達の(この)卑しい体**」は、年齢が進めば進むほど、からだは衰え、朽ち果てて行く姿を見せるのです。

⇒「**朽ち果てる私達の(この)卑しい体**」が、「**御自分の栄光の体と同じ貌に変え給う**」とは、一見非現実のことに思われるのですが、「**朽ちない主イエス・キリストが救い主として其処から来給う**」再臨して下されば、非現実のことではなくなると、パウロは確信します。



⇒「**地上では**」、朽ち果てる肉体をもって生活しますので、病気、交通事故による死亡を警戒し、人間不信に陥ると、心を病み、人を赦せなくなり、しばしば生きる希望を失うのですが、「**天の本国では**」、**死**を恐れる必要がなく、朽ちる肉体を離れていますので、病気や交通事故、人間不信による悩みもありません。地上では、肉体という障害物があったため、直接、相手の心を見ることはできませんでしたが、心の目は、心のすべてを見ることができるのです。何も隠すことのない、信頼だけの生活があるのみなのです。

⇒昨日、志村聡兄ほかの方々の記念納骨式をさせていただき、ヘブル書11章を朗読しましたが、ヘブル書は、地上は仮の住まいで、私たちは旅人だと言っています。

⇒仮住まいは、人々が住む家屋をも意味しますが、本質的には、心のとどまる「**肉体**」をさしています。

⇒「**天の本国**」では、まだ着せられてはいませんが、やがて、朽ちない新しいからだを復活を通して着せていただけるのです。

## 結論；

- ◇**神**は、昔も今も、変わらず**愛の神**、思いやりの神です。
- ◇**ピリピ書**は、**異邦人伝道者パウロ**が、**ローマの獄中**で**認めた書簡**とされています。
- ◇**ピリピ書3章17～21節**は、**主イエス様**を**パウロの人生**を**大転換**して下さったお方と直前の**3章1～11節**で語り、**3章17～21節**では、**キリスト者の本来の生活**に言及、**本国は、天にあり**と、**パウロ**は、は語っています。
- ⇒「**心を尽くして神を愛し**」、「**自分を愛するようにあなたの隣人を愛する**」が**神の愛の掟**。
- ⇒「**神を愛する礼拝**」の中にあることが、「**兄弟を愛する**」ことの鍵です。
- ⇒**神**は、「**兄弟の相互愛**」で、**神の愛**を表現、それは、「**現実化**」が求められています。
- ⇒「**私達の故国は天にある**」は、「**神の愛の掟**」に生きているからこの告白に希望があります。
- ⇒「**キリストの十字架の敵として歩く**」生き方に決別して、**神**が地上で「**本国生活**」をどのように表現してほしいと願っておられるか、**神礼拝**を通して受け止めつづけたい。